

第 3 次淡路市総合計画及び 第 3 期淡路市総合戦略 (基本構想案)

令和 8 年 8 月 2 4 日時点

目次

第1編 序論	1
1. はじめに	2
2. 基礎調査に基づく課題抽出	4
3. まちづくりの課題	5
4. 計画の推進	7
第2編 基本構想	8
1. 理念	9
2. 将来像	9
3. まちづくり指標	10
4. 将来人口	10
5. グランドデザイン・ゾーニング	12
6. 共創のまちづくり	12
7. 基本目標	14
8. 施策体系	15

第 1 編 序論

1. はじめに

(1) 策定の趣旨

本市では、「いつかきっと帰りたくなる街づくり」を将来像に掲げた「第2次淡路市総合計画（平成29年度～令和8年度）」に基づき、市民と共にまちづくりを進めてきました。

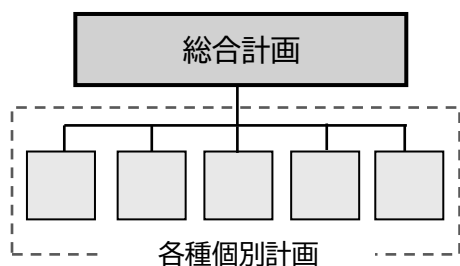
この間、新型コロナウイルス感染症の拡大は、人々の暮らしや価値観に大きな変化をもたらしました。働き方や人とのつながり、地域との関わり方が見直され、デジタル技術の進展も急速に進むなど、社会は大きな転換期を迎えています。一方で、人口減少や少子高齢化は加速度的に進み、地域経済の縮小や担い手不足など、地方を取り巻く課題は一層深刻化しています。

しかし、こうした時代だからこそ、本市が持つ豊かな自然、食、歴史、人のつながりといった地域資源の価値が改めて注目されています。便利さだけでは測れない“暮らしの豊かさ”を実感できるまちとして、本市には大きな可能性があります。

これからの10年は、人口減少を少しでも抑える「挑戦」と、人口減少社会に適応しながら持続可能な地域をつくる「備え」の両方が求められます。全ての市民の可能性を高め、誰もが自分らしく輝けるまちをめざし、新たに令和9年度を初年度とする「第3次淡路市総合計画」を策定します。

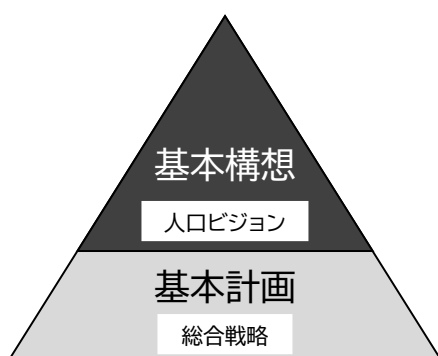
なお、本計画は、人口減少対策に重点を置く「総合戦略」と、新たに改訂する「人口ビジョン」を一体的に策定し、将来を見据えた総合的なまちづくりの指針とするものです。

(2) 位置付けと構成



市の最上位計画

本計画は、まちづくりの長期的なビジョン（将来像）や方向性を示すものであり、**本市**の最上位計画として位置付けられます。



「基本構想」と「基本計画」で構成

本計画は「基本構想」と「基本計画」により構成され、「基本構想」では長期的（10 年）視点からまちづくりのビジョン（将来像）や方向性を示し、「基本計画」では中期的（5 年程度）視点からビジョン（将来像）の実現に向けたまちづくり分野別の目標や施策を示す計画としています。

人口ビジョンは、まちの**めざす**将来人口を示した計画であるため、基本構想に内包し、総合戦略は、人口減少抑制策や人口減少適応策をとりまとめた人口政策の計画として、基本計画に内包**します**。本計画はこれらを一体的に策定した計画です。

(3) 計画の期間

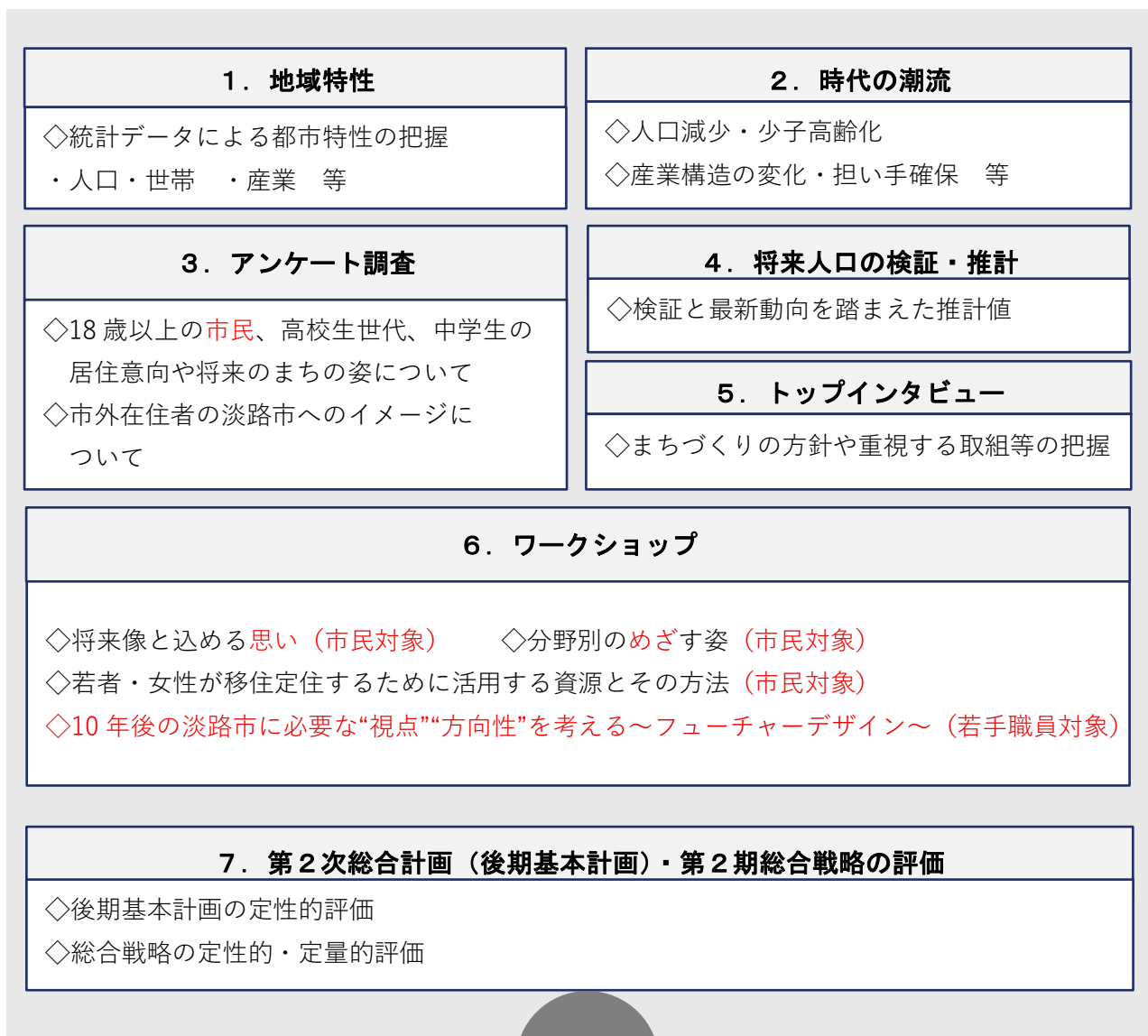
計画期間については、基本構想を令和 9 年度から令和 18 年度までの 10 年間とし、基本計画は前期と後期それぞれ 5 年間とします。前期から後期への移行の際に、その時点の現状等を踏まえ見直しを実施します。

また、第 3 期まち・ひと・しごと創生総合戦略は、5 年計画とします。



2. 基礎調査に基づく課題抽出

近年の本市の状況及び本市を取り巻く社会の動向を探るとともに、アンケート調査による市民ニーズの把握や現行計画（第2次後期基本計画）の検証等により、第3次総合計画策定に当たっての主な課題の抽出を行いました。



集約

審議会委員意見

データ等からみる本市のまちづくりの課題

3. まちづくりの課題

市の固有の資源を磨き、その魅力や価値を未来へつなぎながら、市民と共につくる淡路市の実現に向けたまちづくりにおける課題は、次のとおりです。

(1) 若者に選ばれる「住みたい・帰りたい」まちづくり

中高生の約8割が将来的に市外への転出を希望しており、その主な理由の一つが「魅力的な就職先の不足」です。人手不足が懸念される第1次・第2次産業において、ICTやAI技術を活用して生産性を向上させるとともに、新しいテクノロジーを活用した仕事の場を整備することが求められます。

本市固有の価値（自然、食、歴史等）を生かした「職×住×遊」のPRができるシティプロモーションを戦略的に行い、多様な働き方を創出するとともに、医療・福祉・農業・観光・再生可能エネルギー等がつながる地域循環システムを構築することで、若者が魅力を感じ選ばれるまちとなる必要があります。

(2) 生活利便性と質の向上

「公共交通機関や道路網の整備」については、「あわ神あわ姫バス」などの既存路線を維持しつつ、高齢者や若者など誰もが安心して移動できる環境の充実に図ります。買物環境の改善をはじめ、デジタル技術（DX）を活用することで、市民の生活の質の底上げを図ることが求められています。

また、中高生が望む将来像として「豊かな自然環境を生かした循環型のまち」が上位にあることを踏まえ、自然環境の保全の取組と再生可能エネルギー等を活用した、持続可能なまちづくりが必要です。

(3) 笑顔になれる子育て・教育環境の構築

出生数は減少傾向にあり、子育て世代の減少が顕著となっています。市民の「結婚・子育て支援」の満足度は低くなっていることから、保育料や通学手当等の経済的負担の軽減は継続しつつ、子どもだけの視点でなく、大人が笑顔でいられるような環境の整備が必要です。若い世代が望む「事故や犯罪が少ないまち」を実現するため、地域で見守る体制も求められています。

また、中高生の郷土に対する誇りと愛着を醸成するため、ふるさと教育の充実に図ります。地域の自然や農林水産業等の体験型学習を拡充し、地域への理解を深めることで、将来的な定住へと結びつけることが重要です。

(4) 交流人口創出から移住への結びつき

本市における観光入込客数は年間約 954 万人となっていますが、その約 98%が日帰り客であり、宿泊客は 2%程度にとどまっています。

多くの来訪者が一時的な「通過」となっており、地域経済への波及効果や定住促進に向けた接点の創出が十分とはいえません。今後は、観光と地域住民の暮らしとのバランスを取りながら、地域資源を活用した「滞在・体験型観光」への転換を図る必要があります。「人と人が接する体験」の提供を通じて、来訪者と地域住民の交流を促し、交流人口の創出及びリピーターの獲得を図ることで、地域と持続的なつながりを構築する仕組みの確立が必要です。

(5) 防災力向上と共助によるコミュニティづくり

今後、発生が懸念されている南海トラフ巨大地震等の災害への備えを見据え、自助・共助・公助は不可欠です。

公助としては、引き続き、避難所となる体育館への空調設備の設置などの避難所環境の改善を図るとともに、観光客等の滞在人口を考慮した包括的な災害対策を強化する必要があります。

また近年、人口減少を背景にコミュニティの希薄化が進み、コロナ禍以降は、その流れに拍車がかかっています。災害時の地域の支え合い機能の低下が懸念されており、支援を円滑に受け入れる体制の強化が求められています。

そのため、市民が「自分ごと」として主体的に取り組む地域活動に対し、行政が伴走型支援を行い、移住者、外国人等も含めた多様な人々が地域で役割を担えるよう、地域コミュニティ意識の高揚を図ることが重要です。

(6) 期待される行財政運営と「共創」の市政運営

本市は、これまでも行政改革大綱や新行財政改革推進方策に基づき、行政改革に取り組み、実質公債費比率の改善や財政安定化に努めてきました。

今後も人口減少が見込まれる中、財政運営は厳しい状況が続くと予測されますが、行政サービスに対する満足度を向上させ、市民の生活満足度の向上に寄与する、より安定的で透明性の高い行財政運営が期待されています。

また、社会が大きく変化していく中で、様々な行政課題や地域課題を解決していくためには、全ての市民が主役となり、地域の団体や事業者、行政が一体となって、共に考え、汗を流す「オール淡路市」の取組が不可欠です。持続可能な市政運営のためにも、市民との対話やコミュニケーションの機会を増やすなど、市民と共に創り上げていく「共創」によるまちづくりが重要です。

4. 計画の推進

(1) 国・県・他自治体や地域間等の連携

計画の着実な推進においては、国・県・他自治体とこれまで以上に緊密な連携と協働を図り、効率的かつ効果的な行政運営に取り組むことが重要です。

また、地域の魅力向上や交流人口の拡大に向け、周辺自治体との連携による広域的な取組を推進します。市内においては、施策間の連携を緊密にし、横断的視点を持ち、常に市の実情を勘案しながら、課題解決に向けて計画の推進を図っていきます。

(2) 計画の進捗管理

本計画の推進に当たっては、市民、事業者、学校など多くの方々と、まちづくりの方向性を共有することが重要です。将来像の実現をめざし、本市の強みである「人・自然・食」を最大限に活用しながら、持続可能なまちづくりに向けて計画を推進していきます。

基本計画の各分野に設定した目標指標については、緊密な庁内連携のもとで進捗管理を行うとともに、社会情勢や市民ニーズの変化を踏まえながら施策を柔軟に見直し、計画の推進をより効率的かつ効果的なものとします。

総合戦略については、基本目標に設定した数値目標の達成をめざし、『PDCAサイクル』に基づき事業を推進していきます。具体的には、各施策にある主な事業について、KPIにより進捗管理を行います。

また、外部有識者等を含めた検証委員会による評価・検証を行い、その結果を踏まえ、必要に応じて事業の見直しを行うものとします。



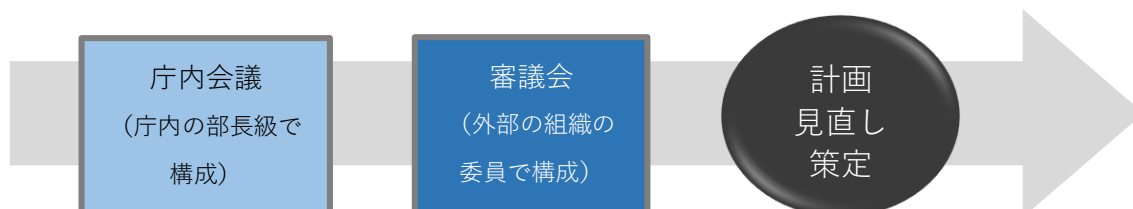
<総合計画におけるPDCAサイクル>

Plan	計画の策定
Do	施策・事業の着実な実施
Check	実施した施策・事業の効果をKPI等により検証
Action	必要に応じた計画の改定

(3) 会議体の設置

総合計画の策定に当たっては、以下の会議体を設置し、策定しました。

計画期間満了に向けての見直しに加え、計画期間中においても評価による様々な課題に対応できるよう、各会議体を設置し、基本計画の見直しを行います。



第 2 編 基本構想

1. 理念

全ての市民の可能性を高め、全ての市民が輝くまちづくり

人がいてこそその淡路市であり、一人一人の輝きこそが淡路市の活力です。

私たちは、全ての市民が夢と希望を持って挑戦できるよう、その可能性を高める環境づくりを進めます。多様な個性が光り輝くまちづくりを通じて、淡路市で暮らす価値を向上させ、次世代へ誇れる、夢と希望ある未来を共に切り開きます。

2. 将来像



暮らすほど、好きになる。

本市には、美しい自然や豊かな食、人と人との温かなつながりなど
このまちならではの魅力があります。

そして、その魅力は、暮らしの中で人と関わり、挑戦し、
自分らしく過ごすほどに深まっていきます。

「More」には、本市の魅力や価値を更に高めていくこと、
そして、市民一人一人の可能性や挑戦が広がり
自分らしく輝けるまちをめざすという思いを込めています。

人・暮らし・活力がつながり合い、市民一人一人が
このまちに誇りや愛着を感じられる
“暮らすほど、好きになる。”淡路市をめざします。

理念とは、まちづくりの“考え方・軸”
将来像とは、その理念のもとで実現したい“まちの姿”

3. まちづくり指標

「MORE AWAI」暮らしほど、好きになる。」は、市民一人一人がこのまちでの暮らしに満足し、幸せを感じ、その思いが積み重なることで実現される将来像です。

そのため、本計画では、市民アンケートによる「幸福度」と「暮らしの満足度」を、将来像の実現度を測るまちづくり指標として設定します。

基本計画に掲げる施策を着実に推進し、市民が「暮らしほど好きになる」と実感できるまちづくりを進めることで、両指標の向上をめざします。

指標	目標値（R18）
幸福度	7.42 点 （現状値（R7）：6.48 点）
暮らしの満足度	6.85 点 （現状値（R7）：5.88 点）

いずれも 0～10 点の 11 段階で回答いただいた平均点

※全国平均（R7）：幸福度 6.44 点・暮らしの満足度 6.68 点

4. 将来人口

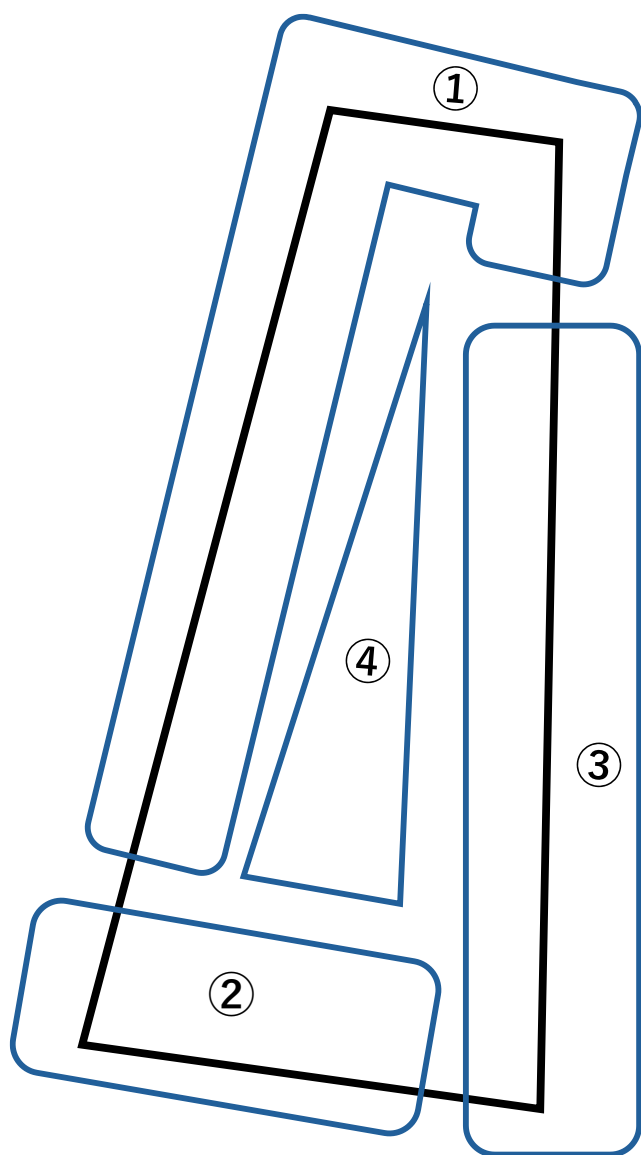
グラフ等

将来人口グラフ等

将来人口詳細データ 年齢 3 区分等

5. グランドデザイン・ゾーニング

各地域の特性を生かした次のゾーニングの方向性を明確にすることで、将来像の実現に向けて、より魅力的なまちづくりを推進していきます。



①ゲートウェイゾーン

淡路市の玄関口として広域交通ネットワークを生かし、人・モノ・情報が行き交う交流拠点を形成します。また、都市と自然が調和した滞在環境を生かし、多様な人材との交流や新たな価値の創出をめざします。

②国生みものづくりゾーン

国生み神話をはじめとする歴史・文化や地場産業を生かし、その魅力を未来へ継承します。併せて、新たな交流や産業の創出につながる拠点形成をめざします。

③都市機能拠点ゾーン

医療・福祉・教育・商業などの都市機能を集積し、誰もが安心して暮らせる生活拠点を形成します。加えて公共交通との連携を強化し、居住や交流を支える都市環境づくりを進めます。

④ファーム&カルチャーゾーン

豊かな自然や農業、歴史・文化資源を守り育て、その価値を次世代へつなぎます。その魅力を生かした交流や体験を通じて、人と地域がつながる持続可能な地域づくりをめざします。

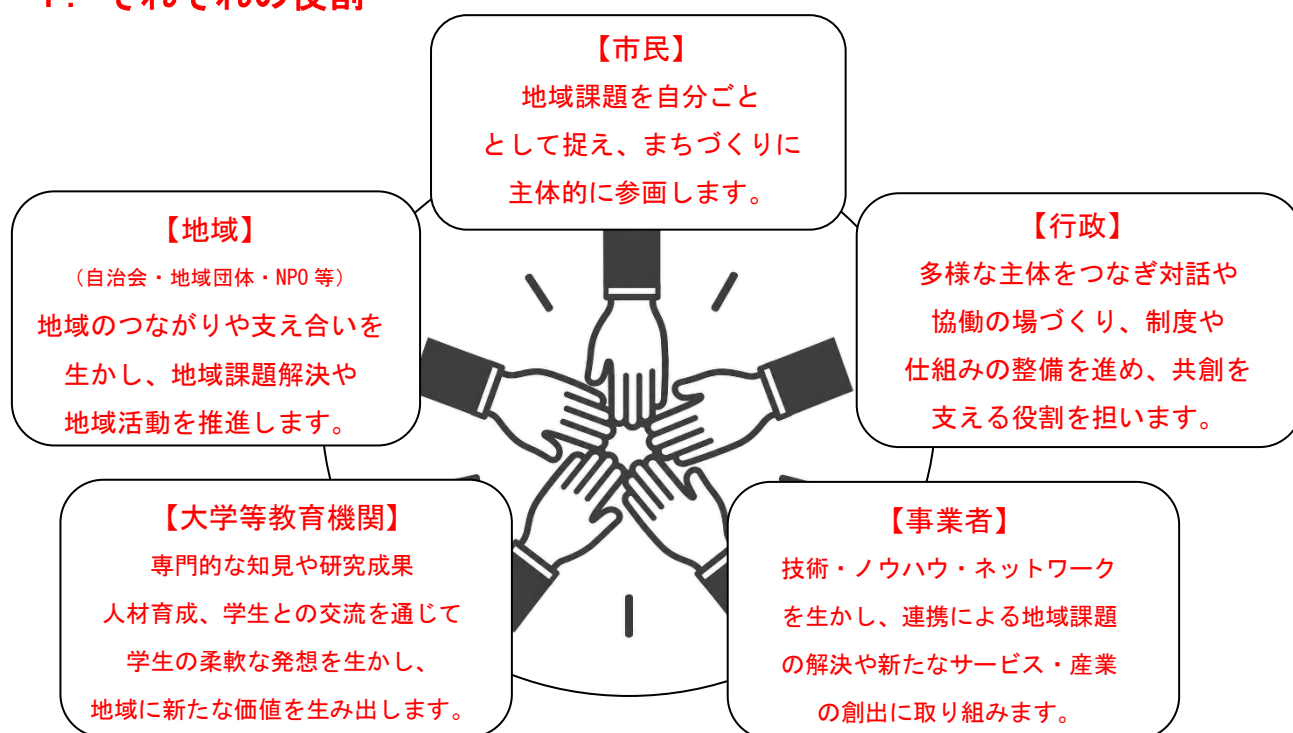
6. 共創のまちづくり

まちづくりは、市民一人一人が主役となり、地域や行政と共に未来を創ることが重要であり、多様な主体による共創の取組を推進します。市民一人一人がそれぞれの役割を担い、民間企業や広域での連携も積極的に取り入れることで、「居心地のよさ」と「市民目線」のまちづくりをめざします。

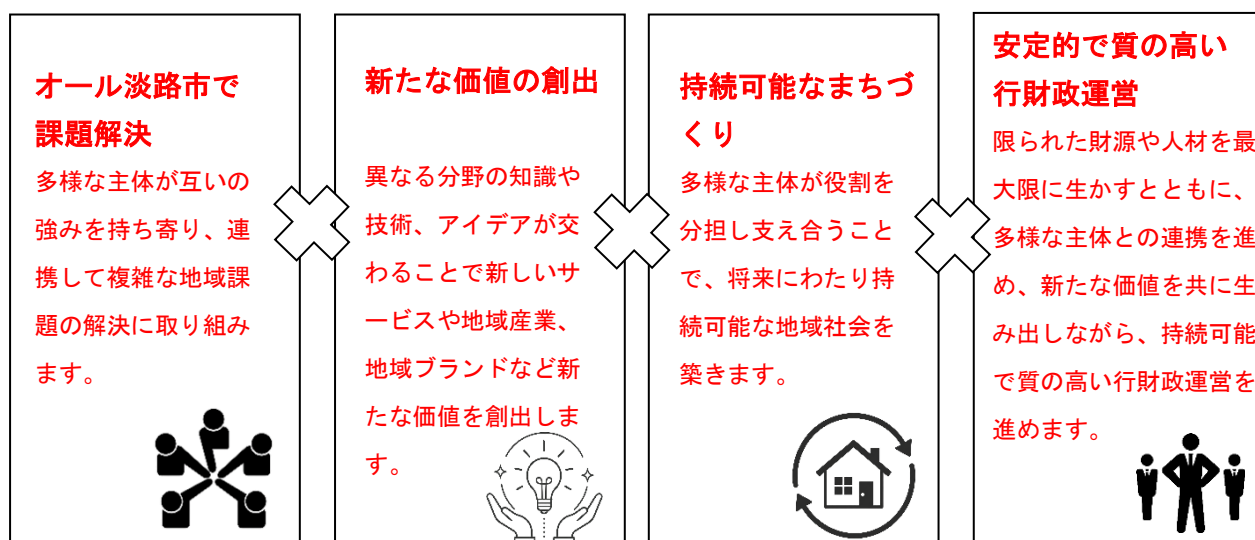
More TOGETHER 一緒につくる、これから

「つくる」こと以上に、「一緒につくる」ことを大切に。

1. それぞれの役割



2. 共創によって生まれる効果



7. 基本目標



可能性が、育つまちへ

基本目標 1

人を育み、“やってみたい”を支え合うまち

誰もが「やってみたい」という思いを大切にし、挑戦できるまちをめざします。
福祉の充実を通じ、人と人がつながり、世代を超えて支え合える地域づくりを進めるとともに、教育や市民の学びを通じて、一人一人の可能性を広げ、未来へ挑戦する人を育てます。
人の輝きが、まちの力になる。そんな“人を中心にしたまちづくり”を進めます。

基本目標 2

安心と心地よさが、暮らしを支え続けるまち

豊かな自然と穏やかな暮らしを守りながら、誰もが安心して、自分らしく暮らし続けられるまちをめざします。自然環境の保全や道路・上下水道などの生活基盤の充実、防災・減災の取組を進めることで、日々の暮らしを支え、心地よさと安心を実感できる環境を整えます。

“何気ない毎日が心地いい。”そんな暮らしの価値を未来へつないでいきます。



心地よい暮らしを、
いつまでも

基本目標 3

地域資源を、新たな価値へ変えていくまち

淡路市の自然、食、歴史、文化。このまちにある“当たり前”を、新たな価値へ変えていきます。

産業を一段と活性化させ、淡路市ならではの魅力を生かした観光・交流を通じて、人や仕事が集まるまちをめざします。暮らしとの調和を大切にしながら、つながりを広げ、“また訪れたい、関わりたい、ここで可能性を広げたい”と思われる、活力あふれるまちづくりを進めます。

また、持続可能な行財政運営と市民との共創を進め、未来へつながるまちづくりを推進します。



地域の宝が、まちの力に

8. 施策体系

人口戦略的
取組

共創で進める持続可能なまち

(1) 人を育み、“やってみたい”を支え合うまち

施策分野

子ども・子育て	健康福祉	地域福祉
障がい者福祉	高齢者福祉	学校教育
生涯学習・スポーツ	歴史・文化	市民交流
人権・男女共同		

(2) 安心と心地よさが、暮らしを支え続けるまち

施策分野

自然環境	住環境	上下水道
道路・交通	防災・減災	移住・定住

(3) 地域資源を、新たな価値へ変えていくまち

施策分野

農業・水産業	商工業	観光
企業誘致	ふるさと納税	行財政

第3期淡路市総合戦略

分野横断の戦略的取組

DXの推進

暮らしを、もっと便利に

デジタルの力で、
持続可能で利便
性の高いまちへ

シティプロモーション

まちの価値をもっと伝える

淡路市の魅力を
高め、内外に発信
し、愛着を深め、
関係人口を広げる
まち